

平成24年度 大学院工芸科学研究科博士後期課程 学位記授与式
学長告辞

本日、博士の学位を取得されました皆さん、誠におめでとうございます。京都工芸繊維大学を代表し、心からお祝い申し上げます。また、皆様をこれまで、支え、育ててこられたご家族の皆様はじめ、本日駆けつけていただいた関係者の方々に対し、心からお祝いを申し上げたいと思います。

京都工芸繊維大学は、昭和63年に大学院を改組し、工芸科学研究科を設置し、これまでに、837名の博士号の学位を授与してまいりました。

本日皆さんには、課程博士甲第652号から甲第671号まで、論文博士乙第187号から乙第188号までの学位を授与いたしました。皆さんの研究業績は本学の知的財産に加えられ、提出していただいた学位論文は広く人々に公開され、それぞれの分野における新たな展開のため、また技術革新や産業創出のために活用されます。さらに皆さんに続く後輩の研究のために利用されます。

学位を取得された皆さんには、今後、それぞれの分野においてその能力を発揮されることを希望しています。そして、特定の専門領域で研究テーマを深く極めることに主眼を置いた研究方法だけでなく、広い視野に立って、他の研究者との共同作業を心がけていただきたい。そして自らの研究や仕事が、社会的にどのような役割を持つのか、社会にどのような影響を及ぼすのか、科学者として、技術者として、一人の人間として、社会的責務を果たすことを考えてください。

皆さんは、すでに25年以上の勉学と研鑽を積んでこられた結果、本日の博士号の学位取得に至ったわけであり、人生の活動期の半分近くを費やして、学位を取得されたこととなります。その意味では、博士の学位取得は人生の一大イベントであり、自らの人生の方向を定める一大事業であります。しかしながら、日本の社会や企業において、博士号取得者の社会的評価は決して高くないのも事実です。狭い専門分野に閉じこもり、幅広い分野の研究へと展開する力がないと言われていました。

皆さんも、明日から異なる研究テーマを遂行せよと言われてたら、戸惑う人も多いかもしれません。しかし、博士号を取得した以上、今日の時点では世界の誰よりもその分野に通暁しているのは、あなた方自身であります。したがって、自分の研究を最もよく評価できるのも、最も厳しく評価できるのもあなた方以外にはいないのです。

現在の研究テーマを残りの人生をかけて追いかけるのか、他から与えられたテーマをやるだけの余裕は作れるか、こうしたことを判断できるのは自分しかいないということを実感していただきたいと思います。

今日は、これまでの人生を振り返り、これからの人生と自分の研究テーマ、社会におけるキャリアパスと研究生活の関係について、改めて考えていただきたいと思います。

ではキャリアパスにおける社会的人物像とは、どのようなものでしょうか。

戦後日本の社会人の典型的な人物像は、社会の成熟段階に対応してあらわれる。

初めに、自律的個人、次に他律的な組織人、そして最近増加しつつある、病的ナルシスと呼ばれる人物像です。これはまた、自我理想の型とも対応しています。

自律的個人とは、1950年代、60年代に青春時代を過ごした個人によく見られる類型であり、彼等の充足感や達成感、周囲の圧力に抵抗して、自分の自我理想を忠実に実行してきたという個人的自負の情にある。組織や外部からの要請を拒み、自らの理想を遂行する人物像であります。自律的個人は、強い責任感と遂行能力を備え、計画を実現する過程で巡り合うさまざまな困難を乗り越え、その都度、自らを鍛え、強靱化していくタイプの人像です。

これに対して他律的組織人とは、自らの自我理想が、周囲からの期待や組織からの要請によって形成されていくタイプの人物像です。したがって、主体は自分が属するグループの目で自分を眺め、グループの愛と尊敬を受けるにふさわしい存在になるべく、組織への忠誠に重きをおく。自らの自我理想に固執しないため、物分りが良く、社会的にもスマートであるが、どこか深みにかける、面白みのない人物像とも言えるでしょう。

そして近年増加しつつある病的ナルシスは、自我理想という心の規範を放棄し、それに代わって、個別の規則の束を重視するタイプであります。病的ナルシスは、自分に都合の良い規則の束によって世界を構成する人物であり、彼等にとって都合の悪い特徴を持つ対象は、彼等の辞書から排除されている。彼等の行動規範は、適用の規則、成功の規則といった規則の束から構成され、規則の運用して他人をゲームの駒のように操作しようとする傾向があります。肯定的かつ否定的な特性の彼方にあるなにか象徴的な特徴が全体を統合しているアイデンティティの核であることが理解できない人物です。

このような社会的人物像と、今あなた方が達成した学術分野における研究成果を直接結びつけることはできません。しかし、学術分野の成果を社会の中で高く位置づけるためには、研究者としての、自分流の生き方を発見することが大切です。オリジナルな生き方を見出すことは、独創的な研究以上に難しいことです。しかし、独創的な研究成果を社会に還元するためには、研究者としての独創的な生き方を発明することが求められるのです。

さて、京都工芸繊維大学においていま最も必要なことは、いろんな分野や領域において成功体験を蓄積し、共有することです。過去の栄光にしがみつくなではなく、新たな挑戦を繰り返す必要があります、皆さんも恐れることなく、新たな一步を踏み出していただきたいと思います。

私たちは、皆さんの活躍を応援し続けます。母校の活動や同窓生の活躍を互いに共有することにより、母校に対する誇りと卒業・修了生に相互の敬愛の情を醸成することから始めるべきだと考えています。

結びにあたり、学長から修了生諸君にお願いがあります。

私は、皆さん方が、修了後も大学を愛することを心から願っております。

人を好きになる場合、彼等は研究がよくできる、彼等はお金持ちである、といった個別の理由を並べ立てても、好きになる理由を説明することはできません。人は利益のカatalogで人を愛するわけではないのです。人は分析できない理由によって人を愛します。大学においても事情は同じであり、皆さんも理由なく、京都工芸繊維大学を好きになっていただきたいと思います。

母校への愛情は、自らの人生とこれからの活動に自信と誇りを与え、より困難な課題、より高い目標に取り組む勇気を与えてくれます。皆さんが世界のどこにしようとも、私たちは、松ヶ崎から皆さんを見守っています。皆さんは、私たち教育者の誇りであり、京都工芸繊維大学が世界の大学であるということを世界中に実証してくれるものと確信しています。

平成25年3月25日

京都工芸繊維大学長

古山正雄